

令和3年度 都農町立都農東小学校・内野々分校 自己評価書

学校経営ビジョン	○ のびる・楽しい・安全な学校
	○ 楽しい学校 信頼できる学校 地域とともにある学校

【評価基準 4段階評価 4:期待以上 3:期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する】

重点指導項目	方法・手立て	評価内容 (児童:児 職員:職 保護者:保)	自己評価		○数字:学校の自己評価コメント・改善点 ■:学校評議員の評価	
			児 職 保	総合		
確かな学力の向上を めざす学校	①「わかる・できる」授業の実践	●職員研修の充実 ●学力タイム等の取組	児:授業は、わかりやすいですか。 職:全教科において、「わかる・できる」授業が実践できているか。 保:子どもは、授業がわかりやすいといっているか。	3.7 3.0 3.2	3.0	①授業が分かりやすいという児童の評価が高い。引き続き、ICT 機器の効果的な活用を含めた授業改善を図り、学力向上に努めていく。 ②家庭学習については、職員と保護者の評価が低い。児童一人一人の理解状況や能力・適正に合わせた家庭学習の方法や内容を工夫していく。 ③読書については、職員や保護者の評価が低い。学校での読書の機会を確保することはもちろん、親子読書の在り方等にも改善を加えて、日常的に読書に取り組む環境を整えていく。 ■授業が分かりやすいという児童が多いのは職員と保護者の連携が取れていると思われ、良いことである。今後、評価が低い項目も評価が上がっていくことと期待する。読書は職員・保護者の評価が低い。好きな本を紹介する場を設けてはどうか。
	②家庭学習の充実	●家庭学習カードによる取組 ●家庭学習の日常的な支援	児:おうちでは、すすんで勉強をしていますか。 職:家庭学習の充実を図ることができているか。 保:子どもは、進んで家庭学習に取り組んでいるか。	3.2 2.5 2.7		
	③読書活動の推進	●読書タイムの設置 ●読書月間の取組	児:本をよく読んでいますか。 職:読書への関心を高め、様々な分野の本に親しませているか。 保:子どもは、読書をよくしているか。	3.2 2.8 2.7		
児童が楽しいと感じる学校 めざす学校	④生徒指導・特別支援教育の組織的な対応	●組織体制の構築 ●初期対応の実施	児:学校は、楽しいですか。 職:特別支援教育の充実を図り、全ての子どもを伸ばすことができたか。 保:子どもは、学校が楽しいといっているか。	3.6 2.8 3.3	3.1	④学校が楽しいと答えている児童・保護者の評価が高い。困り感のある児童への支援はもちろんのこと、すべての児童に適切な支援が行えるように、研修を深め、実践を進めていく。 ⑤友人関係が良好という評価が全項目中最も高い。今後も、児童によく目を向け、話に耳を傾けて、いじめの早期発見・解決に努め、他者を尊重する心を育てていく。 ⑥児童・保護者のあいさつの評価に比べて、職員の評価は低い。名前を呼んでからあいさつをするなど職員から手本となるあいさつをして、変容を図っていく。 ■学校が楽しいことが高評価であり、また友人関係も良好という事は、一番良いことであり、評価できる。
	⑤いじめ・不登校の取組	●日常観察・教育相談の充実 ●あすなろ会での共通理解	児:たくさんのお友だちとなかよくできていますか。 職:いじめの早期発見と早期解決に努めているか。 保:子どもの友人関係は、良好であるか。	3.6 3.2 3.3		
	⑥あいさつの励行	●日常的な指導の徹底 ●地区別交通集会の取組	児:進んで大きな声であいさつができていますか。 職:児童は進んで挨拶をしているか。 保:子どもは、気持ちよいあいさつをしているか。	3.2 2.5 3.1		
たくましい身体 の育成を めざす学校	⑦感染症・病気の予防、安全面	●検温・マスク着用・うがい・手洗いの徹底、日常の安全指導 ●歯の治療の啓発	児:病気の予防や安全に気を付けて生活していますか。 職:感染症や病気の予防について、指導の充実が図られているか。 保:子どもは、感染症や病気の予防や安全面に努めているか。	3.6 3.2 3.2	3.0	⑦病気の予防・安全面については、総じて評価は高い。引き続き、病気の感染予防に努めさせるとともに、虫歯の治療率も上げて、日常の安全意識も高めていく。 ⑧生活習慣の確立については、職員や保護者の評価が低い。早寝・早起きのよさを情報発信して共通理解を図り、望ましい生活習慣の確立を目指す。 ⑨よく運動をしているという児童が多いが、職員の評価は低い。体育科学習の時間の運動量を確保したり、学期ごとに種目を変えて朝の活動に運動の時間を位置付けたりして、体力の向上を図る。また、体育科学習の時間には、運動の楽しさを体験させる機会を増やす。 ■持久走や運動会の練習に真剣に取り組んでいた。いのちの授業でやさしい心も育まれている。早寝・早起きをして、三度の食事をしっかりと、学んでほしい。
	⑧生活習慣の確立	●さわやかタイムの実施 ●家庭への啓発	児:早ね、早おきができていますか。 職:児童は「早寝・早起き」など健康的な生活習慣を身に付けているか。 保:子どもは、早寝・早起きの習慣が身に付いているか。	3.2 2.8 2.7		
	⑨体力の向上	●体育の時間の指導法の工夫 ●朝の体育活動の取組	児:よく運動をしていますか。 職:体力向上プランをもとに、柔軟性や走力の向上が図られているか。 保:子どもは、進んで運動をしているか。	3.5 2.4 3.1		
地域とともにある学校 をめざす	⑩体験活動の充実	●生活科・総合的な学習等の取組	職:地域の人材を可能な範囲で活用し、体験活動の充実を図っているか。 保:学校は、体験活動に積極的に取り組んでいるか。	2.5 3.1	2.8	⑩体験活動については、新型コロナウイルス感染防止の影響を受け、機会が減ったせいか、職員の評価は低い。地域の人材を今まで以上に授業や行事に気軽に活用できるように、町教育委員会や地域コーディネーターと連携して取り組んでいく。 ⑪キャリア教育については、職員の評価が特に低い。キャリア教育の年間計画を改訂し、地域の方とZoom会議等を取り入れ、総合的な学習の時間を中心に深めていく。 ⑫情報の発信については、職員の評価がやや低い。ホームページを中心に定期的に情報を発信する体制をつくっていく。 ■コロナ感染防止の中、学校が地域と関わっていくことは大変厳しいと思うが、今できる事にしっかり取り組んでいけばよい。
	⑪家庭・地域との連携	●キャリア教育の推進	職:キャリア教育を推進して、地域との連携を図っているか。 保:学校は、地域との連携が図られているか。	2.5 3.1		
	⑫積極的な情報の発信	●文書の配付やホームページによる情報発信	職:家庭や地域に積極的に情報を発信しているか。 保:学校は、教育活動の様子を家庭や地域に積極的に発信しているか。	2.8 3.1		

※ 「地域とともにある学校をめざして」の自己評価は、職員と保護者のみの結果である。